

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道整復実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 火曜:1限	教室名	第2校舎202
担 当 教 員	澤 卓 実	実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に 従事)			
《授業科目における学習内容》						
臨床でよく目にする上肢の脱臼の、発生機序、症状、施術方法、経過と予後を学習し、各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断、応急処置について理解し、各損傷に対する、施術の適応の判断ができ、損傷について適切な施術を行えるようになることを目標とする。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期末試験:90%</li> <li>・各項目ごとの小テスト:10%</li> </ul>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学・理論編(改訂第6版:南江堂)</li> <li>・柔道整復学・実技編(改訂第2版:南江堂)</li> <li>・標準整形外科学(改訂第12版:医学書院)</li> <li>・PC、プロジェクター</li> </ul>						
《授業外における学習方法》						
講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。						
《履修に当たっての留意点》						
1年生の前期で総論が終了し、前期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、脱臼とは何か、軟部組織とは何かなど構造的に学び、外傷である脱臼、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント		
		各コマにおける授業予定	D・手関節部の脱臼 ・機能解剖			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	E・手関節部の軟部組織損傷			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	2-7. 手・指部の損傷 ・機能解剖			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	E・中手指節関節、指節間関節の脱臼			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	F・手部、指部の軟部組織損傷 G・注意すべき疾患			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肩関節部の 軟部組織損傷①		
第7回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肩関節部の 軟部組織損傷② F・注意すべき 疾患		
第8回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	2-3. 上腕部の 損傷 ・機能解剖		
第9回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	C・上腕部の 軟部組織損傷 D・注意すべき 疾患		
第10回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	2-4. 肘関節部の 損傷 ・機能解剖		
第11回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肘関節部の 軟部組織損傷①		
第12回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肘関節部の 軟部組織損傷②		
第13回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	講義の復習を し次回講義の 予習をすること
		各コマに おける 授業予定	F・注意すべき 疾患		
第14回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと の小テストを 解答でき、 復習時間の 質問に答え られる	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	全講義の復習 を必ずすること
		各コマに おける 授業予定	前期まとめと 復習①		
第15回	実習形式	授業を 通じての 到達目標	前期講義内容 の理解度を 確認し、各 項目ごとが 理解でき ている	教科書(柔道 整復学理論編・ 実技編)、配布 プリント	
		各コマに おける 授業予定	前期講義内容 の学生理解 度の確認を する		